

## 弥勒三尊像

奈良には、6つの仏教宗派があり、総称して「南都六宗」と呼ばれています。南都は奈良を意味する歴史上の同義語です。薬師寺は、六宗の一つ、法相宗の大本山であり、南都仏教の基本的な教えを与えています。そして、大講堂が宗派の教えを学ぶ場所であるため、これらの教えを説いた弥勒如来がここに祀られています。実際、未来仏である弥勒如来は、お堂を飾る弥勒三尊像の中心に位置しています。彼の従者、彼の右端に法苑林如来、そして彼の左端に大妙相菩薩が立ちます。弥勒如来とこれらの仏の間には、アサンガ（右）とヴァスバンドゥ（左）が立っており、彼らは唯識の教えを説いたインドの兄弟です。

仏教の教えの基礎となった釈迦仏は、仏教の影響が衰える未来を予測しました。彼の後継者として、マイトレヤ（弥勒）は、地上に現れ、悟りを開き、仏教の信仰を復活させる時が来るまで、神聖な存在の住居である兜率天で待つよう課されました。このため、弥勒は通常菩薩（まだ悟りに達していない人）と呼ばれ、実際に法相派は彼を「如来」または仏を成し遂げた人と呼ぶ唯一の仏教宗派です。また、世界と仏教の教えの守護者である四天王も、須弥壇に置かれています。